

「大腸癌診療マニュアル」

自治医科大学助教授・消化器一般外科 小西 文雄 著

自治医科大学附属大宮医療センター消化器内科・助教授

山 中 恒 夫

坂本賢一氏は、その著書「先端技術のゆくえ」(岩波新書)の中で技術と社会の関係についての歴史の変遷を、技術が宗教に仕える宗教の時代、そして国家(政治)の時代、経済の時代を経ていまや技術の時代に入っているとしている。ここで技術の時代の技術は、科学と技術が一体となった情報中心の、技術の技術で武装された高度先端技術であり、経済も政治もこの高度技術に奉仕する時代であるという特質を持つという。そして、次に到来すべき時代は“人間(民衆)の時代”であることを一抹の不安を抱きながら予想している。私の読んだこの書(第6版)の発刊が、1990年であるから、もしかすると時は既に氏の予想された“人間の時代”に入っているかもしれない。少なくとも、医療の現場においては、“人間の時代”に到達しつつあると言えるかもしれない。例えば、カルテ開示の推進や患者に対するインフォームド・コンセントの重要性は広く認識されているところであり、またより質の高い治療が常に求められる現状にある。いまだ続いているかもしれない今世紀の“技術の時代”において医療技術も飛躍的進歩を遂げたことに異論を唱える人はいないであろう。現在、この集積された情

報技術を現場の医療に反映させ、患者に対し“人間の時代”に即した質の高い医療をいかに達成するかが問われているのである。

消化器疾患においても種々の、まさに驚愕すべき医療情報技術の進歩が展開されている。この急速に進歩変容する情報技術を的確に身につける最良の方法は、優れた専門医による成書を熟読することであろう。この度、大学における教育者であると同時に極めて優れた臨床医である小西文雄博士によって「大腸癌診療マニュアル」が上梓された。一読するにまさに時代に即応したすばらしい内容が、わずかA5判153頁の小著に集約されていることに驚嘆の念を禁じえない。一言で表現するのは難しいが、言わば“All in oneの超高性能小型ノートパソコン”を手にしたような充実感があった。

具体的には、全体の構成が“大腸癌診断の手順”に始まり、“術後follow upのスケジュール”、“血行性転移、再発癌の治療”に至るまで臨床および病理学的観点から大腸癌診療において必要な事項が完全に網羅されていること。記述が箇条書で知りたいポイントが素早く見出せ、しかも、最新情報がOne-point Lectureとして要領よくまとめられて

おり、錯綜する最近の種々の情報を整理して理解できること。必要にして最小限の関連文献が文中に示されていることなどが特徴として挙げられる。更に特筆すべきことは、博士が自治医大消化器一般外科において長年集積した独自のデータが随所に示されており、そのデータに基づく記述には自ずと迫力と説得性がある。そして、そのデータが全国集計データと対比され、常にグローバルな視点から解説されていることも内容の信頼性を高めている。博士の学問に対する真摯な態度と明晰な頭脳が汲み取れる。“序”において、“一般外科の修練課程にある若い外科医を対象に”本書を上梓したと述べられているが、むしろ消化器に興味を持つすべての医師に奨めたい。事実、本書を手にしてわずか1か月足らずの期間に外来や病棟などに白衣のポケットにねじ込んで持ち歩き、折りにふれてアンダーライン、書き込みなどをしたため、既に手垢に汚れているが、内科医の私にとっても手放せない一冊となっている。

● A5 頁168 図57 写真42
カラー写真23 色図9 表32
1998 定価(本体4,500円+税)
〒400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)